

ただ今、留学中

チリでの4ヶ月 =4 meses en CHILE=

チリ 宗本 福徳（関高校）

プログラムの約半分が終わろうとしている今、とても貴重な体験をたくさんしています。日本と今僕のいる国、チリではたくさんの異なる点があります。その中でも3つの観点から僕の体験談、思っていることを書こうと思います。

まずは僕のホストファミリーについて。一般的にチリの家族はとても温かいです。の中でも僕のホストファミリーはすごくあたたかく、家族の仲がとてもいいです。そして僕のことを大切にしてくれています。また、この家族は留学にとても理解のある家族で2人の姉は2人ともAFSで留学をし、ホストファザーもアメリカへ留学していた経験がありとてもグローバルな家族なため留学の大変さを知っていて異文化に対しても広く受け入れてくれています。日本に居ては1家族しかもてないけど、このようにホームステイで新しい家族をもつと自分の考える幅や選択肢が広がって、人間として成長できているおもいます。高校生留学は言葉だけでなく自分を成長させるものなんだと改めて感じています。また日本の家族と離れて暮らすことで日本の家族に様々なことをしてもらっていたんだと改めて気づかされました。そしてもっと感謝の気持ちを家族に伝えないといけないと気づきました。プログラム終了後には日本の家族へたくさんの感謝の気持ちを伝えたいです。

次は学校についてです。僕の通っている学校は私立のキリスト教の学校です。学校の授業では日本で習わないような、宗教・哲学などの授業があります。また日本とは時間割も少し異なり、1つの授業(休み時間から休み時間までの間)が長かったりします。しかしその分休み時間はすごく自由で10分間（もう少し長い）時間いっぱい休み時間として使い、友達と話したり、サッカーをしたり、お菓子をたべたりします。また休み時間には、学校に音楽（伝統的なものではなく、流行しているような音楽）がかかっていて踊ったり、歌ったりと自由という言葉がふさわしいです。クラスメイトや先生はやさしく、上手くないスペイン語でも時間をかけて聞いてくれます。もちろん学校の授業がわかるわけではないし、クラスメイトは大学受験に向けて勉強しているため

勉強の内容も難しく、授業中は辛いです。でも授業を聞いているだけでも語学力の向上につながり、日増しに少しづつ理解出来るようになっているのが実感できます。1番大切なことは参加すること、授業中わからないからって寝ていては自分のためにならなく、理解できなくても自分に出来る最大の努力をすることが大切だと学校生活から学びました。

最後はこっちで行っているスポーツについて。こちらでは2つのスポーツ、陸上競技とアルティメットフリスビーをしています。陸上競技は学校の部活動のようなもので短距離を、フリスビーはホストシスターと一緒にチームに入り練習をしたりリーグ戦に出たりしています。スポーツをすることはただ単に自分が好きだからという理由ではなく、スポーツを通して言葉を学べるからです。陸上は日本でもやっていて続けているという形ですが、フリスビーはチリで始めたスポーツなので1から学ばなければいけません。なのでコミュニケーションをとる必要があり、それが語学力の向上につながっています。決して簡単ではないけど、ここでもチームメイトがゆっくり話してくれたり僕のことを考慮してくれます。スポーツを通して人の温かさを感じています。

このように高校生留学は言語学習のためだけではないと肌で感じています。異文化を学ぶことが1番大切な目的です。異文化を学ぶことは自分の考え方か変わったり、視野の広がった自分になれるおもいます。決して異文化を学ぶことは簡単ではありません。僕は言葉を学ぶよりも難しいことだと感じています。でも違った文化を知れば知るほど面白さが分かり、新しい自分に変わっていく気がします。残りのプログラム半分でより異文化を体験・学習しひと回り大きな自分になって日本へ帰れるようにしたいです。



ホストシスターがオーストリアへの留学から
帰ってきたとき空港で